

## 質の高い大学教育推進プログラム 実施状況報告書

大学等名	東京外国語大学		
取組名称	世界的基準となる日本語スタンダードの構築		
申請区分	上記以外の工夫改善を主とする取組		
取組期間	平成20年度～平成22年度（3年間）		
取組学部等	全学	取組担当者	坂本 恵
Webサイト	<a href="http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/jlc-gp/">http://www.tufs.ac.jp/common/jlc/jlc-gp/</a>		
取組の概要	<p>本学留学生日本語教育センター(JLC)では長年にわたる日本語教育の成果として、自らの日本語教育を可視化し、他機関にも参考にしてもらえようものとしてその教育内容を「JLC日本語スタンダード」として発表している。この「JLC日本語スタンダード」がアカデミックな日本語能力の養成に関する世界的基準となるよう、基礎研究を積み上げ、内外の他機関の意見、要請などを参考にし、実践を行う中で改訂を行い、その成果を公表するものである。</p>		

### 1. 取組の実施状況等

#### ①取組の実施状況 【1ページ以内】

(1) 大学の一部局である「留学生日本語教育センター」では全センターをあげてこの取り組みを実施する体制を作っている。取り組みそのものは、そのために結成された「スタンダード協議会」が調整、進行を行い、この取り組みを実現化するためのいくつかのプロジェクトを進めた。「スタンダード協議会」のメンバーは各プロジェクトの責任者として、プロジェクトを進める一方で、全体の調整を行った。各プロジェクトには、センターの教員が複数参加し、また、この期間中に行われた研究会、シンポジウムには、全センター教員が積極的に参加した。実際のプロジェクトの進行には、この取り組みのために採用された助教も参加し、調整を行った。

(2) 取り組みの全体スケジュールおよび各年次の実施計画

#### 【平成20年度】

- 秋 全学日本語プログラムの組み替え
- 秋 中級レベル教材開発開始
- 秋 助教採用
- 11月 日本語ライティング支援コーナー試行開始
- 12月 作文コーパス設計開始
- 1月 パンフレット作成
- 3月 国際シンポジウム開催（教育GP「世界的基準となる日本語スタンダード構築」国際シンポジウム2008年度 テーマ「初級から中級へのアカデミック・ジャパニーズ」3月14日（土）於：留学生日本語教育センターさくらホール）
- 3月 海外の日本語教育事情調査開始（対象国：イタリア、香港、トルコ学生を継続して受け入れて、学生の背景について情報の少ない大学ー以下同様）
- 3月 「JLC日本語スタンダード2009改訂版」日本語版、英語版作成

#### 【平成21年度】

- 4月 作文コーパスデータ収集開始
- 4月～ 毎月研究会開催
- 9月 ホームページ作成
- 秋 全学日本語プログラム組み替え検証、修正  
海外の日本語教育事情調査（対象国：ロシア、フランス、イタリア（前年度からの継続調査））
- 2月 国際シンポジウム開催（教育GP「世界的基準となる日本語スタンダードの構築」国際シンポジウム2009年度 テーマ「大学におけるアカデミック・ジャパニーズの現状と課題」2月27日（土）於：留学生日本語教育センターさくらホール）

#### 【平成22年度】

- 4月～ 研究会開催
- 秋 全学日本語プログラム組み替え検証、アンケート調査
- 11月 国際シンポジウム開催（教育GP「世界的基準となる日本語スタンダードの構築」国際シンポジウム2010年度 テーマ「JLC日本語スタンダードの今後の展望」11月27日（土）於：留学生日本語教育センターさくらホール）
- 3月 報告書作成  
「JLC日本語スタンダード2011改訂版」日本語版、英語版作成  
「JLPTUFS作文コーパス」データCD、報告書作成

(3) 社会への情報提供活動

「JLC日本語スタンダード」についてはホームページで広報を行っている。

## ②. 取組の成果 【1ページ以内】

本取り組みにより以下のような教育内容の質的向上が得られた。

1. アカデミック・ジャパニーズ習得を目標とした「全学日本語プログラム」で、「JLC 日本語スタンダード」をより実現できるクラス編成を行い、運用力をつけることを中心とした「総合クラス」が充実したこと、また、「JLC 日本語スタンダード」を担当教員がクラス運営、評価などに応用することにより、大学での勉学に役立つ日本語力を身につけるという目標に近づくことができた。「JLC 日本語スタンダード」に沿ったクラス編成を行ったこと、教員の意識の変革による授業内容の変化が大きな成果である。学生アンケート、授業担当者の報告を見ても、満足度は高く、成果を上げたと言える。
2. 「JLC 日本語スタンダード」に沿った教材の開発が進み、その教材を使用したクラスで、アカデミック・ジャパニーズ習得が効果的に行われるようになった。
3. 学習者の作文コーパスを作成することにより、学習者の誤用を分析することが容易になった。研究の成果はこれから教育に反映される。
4. ライティング支援コーナーの設置により、学習者のニーズを知ることができた。ニーズを生かした支援のあり方について今後考える際の手がかりをつかむことができた。今後その成果が反映される。
5. 海外での日本語教育事情調査により、「JLC 日本語スタンダード」が海外でも参考にしてもらえることが確信できた。海外の教育機関、学生のニーズについても知ることができた。この知見が最新の「スタンダード」に反映されているほか、教材開発などにも生かされている。
6. 研究会やシンポジウムの開催、「JLC 日本語スタンダード」を配布することにより、学内教員の意識変革に役立ち、広く関係者の参考に供することとなった。

計画時における取組の目的や達成すべき成果については、教育プログラム組み替えによる効果、教材作成、作文コーパス、ライティング支援での調査などについては計画通りに達成したが、達成すべき目標としてあげた、「学習者の達成度認定基準」の作成については未だ検討段階で、現時点で形になったものを示すことができず、十分とは言えない。この点につき、検討をし、方向性は確認することができたが、形になった成果は上げることができなかった。

本取組が学内外に与えた波及効果としては、この取り組みを行っている「全学日本語プログラム」の学内での認知度が高まったこと、成果が認められ、プログラムの維持、拡大が認められたこと、教職員の意識改革が進んだことがあげられる。「JLC 日本語スタンダード」を応用した教育を海外で行ったところ、担当した国内他機関教員や海外の機関において高い評価を得たことがあげられる。

### ③. 評価及び改善・充実への取組 【1ページ以内】

「全学日本語プログラム」の評価については、学期ごとに学生に対するアンケートを実施した。また、授業担当者に学期ごとの記録を残すこと、今回の取り組みの最後の学期に授業について改善された点などについて報告を出すことを依頼した。報告に基づいて、専任教員で構成される運営委員会で、各授業、成果について検討を行った。授業の報告はG P 報告書に記載されている。

シンポジウムの際には、アンケートを実施し、得られた意見について分析を行った。おおむね好評な評価を得ている。問題点については、その次の研究会、シンポジウムで改善したほか、「JLC 日本語スタンダードズ」改訂時にスタンダードズの内容に反映させた。

すべての取り組みで得た知見、成果が「JLC 日本語スタンダードズ 2011 改訂版」に反映されている。

関係する学会、研究会などにメンバーが出席し、「JLC 日本語スタンダードズ」についての意見を徴収している。

センター外部評価でもG P 採択について言及があり、評価されていることがわかる。

#### ④. 財政支援期間終了後の取組 【1ページ以内】

G P の財政支援を得て実施していた「全学日本語プログラム」の組み替えについては、平成 23 年度については、大学執行部からの支援を得て、継続して行っている。G P 予算により雇用されていた助教の任期は終了したが、このプログラムの重要性を鑑み、取り組みを継続させるため、留学生日本語教育センター内で専任教員を 1 名当該プログラムの担当とし、プログラムの充実を継続している。

取り組み期間中に十分に実施できなかつた達成度認定基準の構築に向けて、当該プログラム担当教員で新しくプロジェクトを立ち上げ、センター予算を得て、認定基準作成を継続している。

教材開発はプロジェクトメンバーを組み直し、引き続きセンター予算でプロジェクトを継続している。作文コーパス構築は、センター内の「全学日本語プログラム」でのコーパス作成はほぼ終了したが、「1 年コース」の作文コーパスについてはさらに資料収集を続け、引き続き、センター予算でコーパス作成を行っている。

「JLC 日本語スタンダード 2011 改訂版」日本語版、英語版の配布は今後も継続して行い、普及に努める。教育プログラムでの試み、研究活動も継続して行う。

継続実施にあたっての問題点は、次年度以降の予算である。今年度は上述のようにセンター予算でプログラムの充実、いくつかのプロジェクトの継続が可能になったが、来年度以降は財政上の課題が指摘されており、継続できるかどうか不透明である。

「世界的基準となる日本語スタンダードの構築」

